720×500

項目	特記事項
12 10.5.3 施工 [(f)(2)付加]	a. 風圧力に対応した工法 ※設計図による b. 目地幅 ※8mm以上 c. 目地処理 ※目地シーリング ・オープン目地
13 10.5.4 性能 [追補]	a. 荷重条件は、「工事概要書 2-2 構造設計条件及び 2-3 総合耐震クライテリア」による。 b. 耐震要求性能は、10.1.2 による。 c. 耐風圧性能 1)設計用風圧力に対して、石材及び取付け金物等は短期許容応力度以下とし、何ら損傷を生じないものとする。 d. 耐温度差性能 1)温度変化ΔT=75℃(+60～-15℃)に対して、構造上・美観上有害な欠陥が生じないものとする。

タイル工事

1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地

位置 ※表11.1.1による（外壁の場合） (11.1.3)(表11.1.1)
・図示

2 セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り (11.2.2)

施工箇所	用途による区分	形状寸法(mm)	吸水率の区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施釉	無釉	色 標準	特注	耐凍害性	滑り抵抗性	役物の適用	品質(公表単価(円/㎡))
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
タイルの試験張り ※行わない ・行う (11.2.2)
タイルの見本焼き ※行わない ・行う
モルタル塗りコンクリート素地面の処理 ・ＭＣＲ工法 ・目荒し工法 (11.2.7)
壁タイル張りの工法
内装タイル ※改良積上げ張り
外装タイル ・密着張り ・改良積上げ張り ・改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り

3 接着剤による陶磁器質タイル張り (11.3.2)

施工箇所	用途による区分	形状寸法(mm)	吸水率の区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施釉	無釉	色 標準	特注	耐凍害性	役物の適用	品質(公表単価(円/㎡))
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
タイルの試験張り ※行わない ・行う (11.3.2)
タイルの見本焼き ※行わない ・行う
接着剤のホルムアルデヒド放出量 ※Ｆ☆☆☆☆ (11.3.3)
外装タイル接着張りにおける目地のシーリング材 (11.3.4)
打継ぎ目地及びひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系
伸縮調整目地その他の目地 ※変成シリコーン系
モルタル塗りコンクリート素地面の処理 ・ＭＣＲ工法 ・目荒し工法 (11.3.7)
壁タイル張りの工法 ※表11.3.2による ・図示

4 陶磁器質タイル型枠先付け (11.4.2)

施工箇所	用途による区分	形状寸法(mm)	吸水率の区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施釉	無釉	色 標準	特注	役物の適用	品質(公表単価(円/㎡))
			・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする

タイルの試験張り ※行わない ・行う (11.4.2)
タイルの見本焼き ※行わない ・行う

タイル型枠先付けの種類 (11.4.2)(表11.4.1)

種類	適用タイル形状	せき板の種別
・タイルシート法	・小口タイル	※6.8.3(b)(2)による
・目地桝法	・二丁掛けタイル	・金属製タイル先付け用パネル
・桟木法	・大型タイル	・

木工事

① 表面仕上げ (12.1.4)(表12.1.1)

表面仕上げの種別	適用箇所
・Ａ種	
※Ｂ種	吹抜、講場、エントランスホール
・Ｃ種	
・Ｄ種	

② 代用樹種 ※ 使用できない ・ 使用できる（表12.2.3による） (12.2.1)

③ 目視検査 日本農林規格以外の製材及び集成材について，目視による材の欠点がないことの確認は，樹種ごとに無作為に抽出し，その抽出割合は10%以上とする。

④ 製材 ⊙下地用針葉樹製材 (12.2.1)(表12.2.1)

施工箇所	※ 図示 ・
樹種	⊙ 杉 ⊙ 桧
寸法(mm)	※ 図示 ・
等級	日本農林規格を使用する場合： ・ １級 ※２級 日本農林規格以外を使用する場合： ※ 特一等 ・ 一等
形状	※ 図示 ・
含水率	※ 15%以下 ・
防虫処理	・ 行う ⊙ 行わない
難燃処理	・ 行う ⊙ 行わない

⊙造作用針葉樹製材

施工箇所	※ 図示 ・
樹種	⊙ 杉 ・ 桧
寸法(mm)	※ 図示 ・
等級	日本農林規格を使用する場合： ・ 無節 ・ 上小節 ・ 小節 ※ 並 日本農林規格以外を使用する場合：・ 上小節・ 小節※ 特一等
形状	※ 図示 ・
含水率	※ 15%以下 ・
防虫処理	・ 行う ⊙ 行わない
難燃処理	・ 行う ⊙ 行わない

・広葉樹製材

施工箇所	※ 図示 ・
樹種	・
寸法(mm)	※ 図示 ・
等級	日本農林規格を使用する場合： ・ 特等 ※ １等 ・ ２等 日本農林規格以外を使用する場合： ※表6.5.3における Ａ種 ・ Ｂ種
形状	※ 図示 ・
含水率	※ 15%以下 ・
防虫処理	・ 行う ・ 行わない
難燃処理	・ 行う ・ 行わない

⑤ 造作用集成材
ホルムアルデヒド放散量等 ※Ｆ☆☆☆☆，12.2.1(c)による (12.2.1)
⊙造作用集成材 ○化粧ばり集成材

施工箇所	※ 図示 ・
樹種	⊙ 杉
寸法(mm)	※ 図示 ・
等級(見付け材面の品質)	日本農林規格を使用する場合： ※ １等 ・○2 等 日本農林規格以外を使用する場合： ※ 上小節 ・○特一等
含水率	※ 15%以下 ・
芯材	・

⑥ 造作用単板積層材
ホルムアルデヒド放散量等 ※Ｆ☆☆☆☆，12.2.1(d)による (12.2.1)

施工箇所	※ 図示 ・
厚さ(mm)	※ 図示 ・
表面の品質	表面の化粧加工 ⊙ 有り（○ 天然木化粧加工 ・○塗装加工） ・ 無し（ 等級 ： ・ １等 ・ ２等 ・ ３等）
含水率	※ 14%以下 ・
防虫処理	・ 行う ⊙ 行わない

⑦ 床張り用合板等
ホルムアルデヒド放散量等 Ｆ☆☆☆☆，12.2.1(e)による (12.2.1)
普通合板

施工箇所	厚さ(mm)	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	難燃処理	防炎処理
⊙図示	※5.5	・ラワン・しな	※１類	広葉樹(※２等以上・)	・	・	・
⊙図示	・	・	・２類	針葉樹(※C-D以上・)			

構造用合板

施工箇所	厚さ(mm)	表板の樹種名	接着の程度	等級	板面の品質	防虫処理	強度等級
⊙図示	※12.0		※１類	※２級以上	※C-D以上	・	※指定しない
⊙図示	・		・特類	・１級	・		・

パーティクルボード

施工箇所	厚さ(mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分
	※15.0	・素地(研磨品)	※13タイプ	※PXはWタイプ	
	・	・単板張り (・研磨品・無研磨品)	・	・	

構造用パネル

施工箇所	厚さ(mm)	等級
		・１級 ・２級 ・３級 ・４級

ホルムアルデヒド放散量 (12.2.2)(12.2.3)
※Ｆ☆☆☆☆，またはそれと同等と認められるもの

9 防腐・防蟻処理
薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理 (12.3.1)

適用部位	保存処理性能区分
	・Ｋ２ ・Ｋ３ ・Ｋ４
	・Ｋ２ ・Ｋ３ ・Ｋ４

薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理 (12.3.1)

適用部位	処理の方法
	※12.3.1(3)による
	※12.3.1(3)による

ボード原料接着剤への薬剤混入による防腐・防蟻処理 (12.3.1)
適用部位（ ）

屋根及びとい工事

① 長尺金属板葺 (13.2.2)(13.2.3)(表13.2.1)

施工箇所	板及びコイルの種類	塗膜の耐久性，めっき付着量等の種類及び記号	厚さ(mm)	屋根葺形式	備考
⊙図示	※JIS G 3322の屋根用コイル		0.4	・心木なし瓦棒葺 ・立平葺 ・横葺	
	・			⊙カンゴウ式平滑葺	

下葺材料 ・アスファルトルーフィング940
⊙改質アスファルトルーフィング下地材
（・一般タイプ ・複層基材タイプ ⊙粘着層付タイプ）

2 折板葺 (13.3.2)(表13.2.1)

施工箇所	形式	タイトフレーム(mm) 山高	山ピッチ	耐力による区分	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板	耐火性能
	・重ね形 ・はぜ締め形 ・かん合形			（ ）種	※鋼板製 ・アルミニウム合金製		・有り ・無し	・30分 ・無し

材料 板及びコイルの種類（ ）
塗装の耐久性，めっき付着量等の種類及び記号（ ）
断熱材張り・適用する（種別： 厚さ(mm)： 防火性能： 時間）

3 粘土瓦葺
種類，大きさ，産地，役物瓦の種類等 ※図示 (13.4.2)
瓦桟木 ※13.4.2(b)による (13.4.2)
棟補強用心材 ※13.4.2(C)による (13.4.2)
瓦桟木の留付け工法 ※図示 (13.4.3)
棟の工法 ※13.4.3(d)による (13.4.3)

④ とい
材料 (13.5.2)(表13.5.1)

材種	寸法	施工箇所
⊙硬質ポリ塩化ビニル管（VP）		※たてどい
・硬質ポリ塩化ビニル管カラー（カラーVP）		※たてどい
・硬質塩化ビニル雨どい		※軒どい ・たてどい
⊙その他 図示		

受け，掴み金物等の付属金物の材質 ※ステンレス製 ・亜鉛めっき (13.5.2)
といの防露巻き工法 ※表13.5.5を適用する (13.5.3)
防露材のホルムアルデヒド放散量 (13.5.2)
※Ｆ☆☆☆☆，またはそれと同等と認められるもの

⑤ ルーフドレン ⊙鋳鉄製（評価名簿による） ・ステンレス製 (13.5.2)

1節 一般事項

⑥ 13.1.2 基本要求品質 [付加]
a. 荷重条件は、「工事概要書 2-2 構造設計条件及び 2-3 総合耐震クライテリア」による。
b. 金属等電位差のある導電性物質同士が接する箇所は、適切な電位差腐食防止処置を行う。仕様は14.9.5による。
c. 落雪対策
・行う（設計図による） ・行わない
d. といその他は、各部の納まりが適切で、「工事概要書 2-1 建築設計条件」により定まる雨、「工事概要書 2-2 構造設計条件」により定まる風・雪、想定される環境下における熱等の外力に対して安全性を確保する。
e. といは、その全経路にわたって「工事概要書 2-1 建築設計条件」により定める雨量に対する排水能力と勾配を確保する。
f. といには保守・点検を容易に行えるよう、必要に応じて塵よけ・オーバーフロー清掃口等を設ける。

⑦ 13.1.5 屋根の性能と検証 [追補]
a. 屋根工事には、JASS 12 [2節](屋根工事の目標性能)を適用し、基本性能及び二次的性能の検証を行う。
b. 屋根葺工事は、止水性能を含めて専門工事業者による責任施工とする。

5節 とい

⑧ 13.5.2 材料 [付加]
a. フロアドレンの取付けは、コンクリート打込み前の先付けを原則とし、つばをコンクリート天端より20mm程度下げて取り付ける。

⑨ 13.5.3 工法 [付加]
a. 軒どいを金属板で製作する場合は、水上に立上りを兼ねた伸縮継手を設ける。水位が上昇して継手を超えた場合でも漏水の発生がないように製作する。といの下地材への取付けは、ルーズホールで熱伸びに対処する工法とする。
[付加] b. たてどいは、各階ごとに床スラブに自重受けを設ける。各階としない場合には計算書を作成し監督職員の承諾を受ける。
[付加] c. といの曲がりの部分には掃除口を設け、その下に天井がある場合は天井点検口を設ける。
[付加] d. 落葉等によりルーフドレンがつまるおそれのある箇所は、つまり防止用のステンレス網かごを設置する。
適用箇所（ 図示 ）
[付加] e. 屋根面排水溝、軒どい、谷といの排水勾配は、陸屋根の場合は1/200以上、軒どい及び谷どいの場合は1/50以上とする。
[付加] g. 配管用鋼管に排水鋼管用可とう継手を使用する場合は、曲り部分を圧送排水鋼管用可とう継手とし、継手直近での抜け防止を図る。

金属工事

① あと施工アンカー 引抜耐力確認試験 ⊙行う ・行わない (14.1.3)

② 表面処理
ステンレスの表面仕上げ(付加による) (14.2.1)

表面仕上げの種類	材質	施工箇所(手すり，タラップ，建具以外)
・No2Ｂ	※SUS304	
・＃400	※SUS304	
・鏡面仕上げ	※SUS304	
・	※SUS304	

アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理 (14.2.2)(表14.2.1)

表面処理の種別	皮膜又は複合皮膜の種類	施工箇所(成形板，笠木，手すり，建具以外)
⊙Ａ－１種 ・Ａ－２種	※ＡＡ15	
・Ｂ－１種 ・Ｂ－２種	※Ｂ ⊙Ａ２以上	
・Ｃ－１種 ・Ｃ－２種	※ＡＡ6	
・Ｄ種		

陽極酸化皮膜の着色方法 (14.2.2)
※二次電解着色(・アンバー・ブロンズ・ブラック系・ステンカラー)
鉄鋼の亜鉛めっき (14.2.3)(表14.2.2)

表面処理方法	種別	施工箇所(手すり，タラップ以外)
溶融亜鉛めっき	⊙Ａ種 ⊙Ｂ種 ⊙Ｃ種	・図示、屋外に面する箇所
電気亜鉛めっき	⊙Ｄ種 ⊙Ｅ種 ⊙Ｆ種	

③ 軽量鉄骨天井下地
野縁等の種類 (14.4.2)(表14.4.1)
屋内（※19形 ・25形） 屋外（・19形 ※25形 ・ ○ 図示
屋外の軒天井・ピロティ天井等
野縁等の間隔 ⊙図示 (14.4.3)(表14.4.2)

野縁	野縁受	吊りボルト及びインサート	周辺部の端からの距離

⊙耐風圧性を考慮した補強 (14.4.3)
適用箇所：※図示 ・ 補強方法：※図示
⊙吊りボルトの間隔が900mmを超える場合の補強 (14.4.3)
適用箇所：※図示 ・ 補強方法：※図示
⊙天井下地材における耐震性を考慮した補強 (14.4.4)
適用箇所：※すべて ・図示
補強方法：⊙国土交通省平成25年告示第771号の基準に適合するもの(第3 十を除く)
・14.4.4(c)による。ただし、ふところ1.5m以下の場合も適用し、
固定方法は専用金具又はボルトとし、溶接は不可とする。

・天井のふところが３ｍを超える場合の補強 (14.4.4)
適用箇所：※図示 ・ 補強方法：※図示

④ 軽量鉄骨壁下地
スタッド，ランナー等の種類 ※表14.5.1による・図示 (14.5.3)(表14.5.1)
スタッドの高さが５ｍを超える場合 ※図示

5 金属成形板張り(天井) 材料 (14.6.2)(表14.2.1)

材種	製法	形状	寸法(mm)	表面処理
・アルミニウム	・押出し	スパンドレル形	板厚	・Ｂ－１種
・	・ロール		板幅	・Ｂ－２種 ・ブラウン系 ・ブラック
	・プレス	パネル形		・ステンカラー ・

取付け用下地 ※14章４節による ・図示 (14.6.3)
伸縮調整継手 ・設ける（施工箇所 ※図示 ・ ） (14.6.3)

⑥ アルミニウム製笠木
部材の種類 ・250形 ・300形 ・350形 ○ 図示 (14.7.2)(表14.7.1)
隅角部，端部の役物 ※使用する（笠木本体製造所の仕様による）
・使用しない
表面処理 ※表14.2.1のＡ－１種又はＢ－１種

⑦ 手すり (14.8.2)

材料の種別	施工箇所	表面処理	備考
ステンレス(SUS304)	⊙図示	⊙＃400 ・	
鋼	⊙図示	⊙塗装 ・	
アルミニウム(BL認定部品)	・図示	・Ｂ－１種 ・	

⑧ タラップ 材料の種別 ※ステンレス(SUS304) ・鋼 (14.8.3)
表面処理 （ ）

1節 一般事項

⑨ 14.1.1 適用範囲 [付加]
a. この章は、金属工事に適用するほか、屋根及びとい工事・建具工事・カーテンウォール工事・サイン工事等、その他各所の金属を使用した工事にも適用する。

⑩ 14.1.2 基本要求品質 [付加]
a. 荷重条件は、「工事概要書 2-2 構造設計条件」 による。
b. 「工事概要書 2-3 総合耐震クライテリア」によるほか、ケース1に対しては無被害、ケース2に対しては脱落しないものとする。
c. 金属材料は、温度伸縮や地震、強風等の環境及び経年変化に対して、破損、脱落、緩み等がないよう、使用箇所や状況に応じて必要な処置を講じ、十分な安全性を確保する。また、異種金属の接触腐食防止処理を行ったうえで、有害な水分等が滞留しないよう適切な対策を講ずる。
f. 笠木は、各部の納まりが適切で、「工事概要書 2-1 建築設計条件」により定まる雨、「工事概要書 2-2 構造設計条件」により定まる風・雪、想定される環境下における熱等の外力に対して安全性を確保する。

⑪ 14.1.3 工法 [付加]
a. アルミニウムの切板仕上げは、小口をソー切断又はブレーナー切断とし、手の触れる金属切断面は糸面取りとする。
b. 外部に面する金属パネル裏面の防露材吹付け
※行う ・行わない
c. 電位差腐食防止処理
1)ボルト・小ねじ・釘・座金等の結合用材・取付け金物でステンレス
アルミニウム・鋼等と接触するものはステンレス製とし、接する金属により必要な腐食防止処理は次表を標準とする。

表14.1.3 異種金属の組合せと電位差腐食防止処理

条件		接触腐食防止処理
鉄鋼↑↓アルミニウム	鉄鋼側	亜鉛めっき又は錆止め塗装2回塗り(30μ以上)
	アルミニウム側	陽極酸化塗装複合皮膜（ B-1種、B-2種) 又は合成樹脂パッキング(テフロン等) 又は塗装(アクリルクリヤー塗装20μ以上)
アルミニウム↑↓ステンレス	アルミニウム側	陽極酸化塗装複合皮膜（ B-1種、B-2種) 又は合成樹脂パッキング(テフロン等) 又は塗装(アクリルクリヤー塗装20μ以上)
	ステンレス側	無処理
ステンレス↑↓銅	ステンレス側	無処理
	銅側	無処理
ステンレス↑↓チタン	ステンレス側	無処理 ただし、海岸、工業地域は塗装(アクリルクリヤー塗装20μ以上) 又は合成樹脂パッキング(テフロン等)
	チタン側	無処理
チタン↑↓鉄鋼アルミニウム	チタン側	無処理
	鉄鋼アルミニウム側	錆止め塗装2回塗(30μ以上) 又は陽極酸化塗装複合皮膜（ B-1種、B-2種) 又は合成樹脂パッキング(テフロン等)

⑫ 14.1.5 材料 [付加]
a. 外気に接する鋼製のボルト・ナットは、溶融亜鉛めっき又はステンレス製とする。
b. 見え掛り部でやむを得ずビスを使用する場合は六角穴ビスとする。

⑬ 14.1.6 見本 [追補]
a. 表面処理・仕上げについては、あらかじめ見本を提出し、監督職員の承諾を受ける。

着工	平成 28年 6 25	. .	
竣工	令和 元年 11 30	. .	
監理		. .	監理 日建・上田特定監理業務等共同企業体
		. .	
施工		. .	施工 大成・大旺新洋特定建設工事共同企業体
		. .	

完成図 意-09

日建・上田特定設計委託業務共同企業体

高知市都市建設部公共建築課					
担当	担当	係長	課長補佐	副参事	課長

高知市新庁舎建設工事

特記仕様書 (5)

意 1－7

NO. 0－140004－B